

PAGESBOX Plus

TN5250E機能設定ガイド

第2版 2020年6月

- 本書はそれぞれのOSにあわせて注意深く用意しておりますが、将来バージョンアップやOSに変更のあった場合など、パソコンのモニターに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- 本書に記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。

- IBM、AIXはIBM Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows等は米国 Microsoft Corporationの米国及び他の国における登録商標です。
- その他、記載されている社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

本書は、PAGESBOX Plusに搭載されているTN5250E機能について説明します。本書は、本製品を設置する導入担当者および操作員の方々を対象にしております。

本書は次のように構成されています。

第1章 『IBM i (IBM System i, AS/400) との接続』

IBM i (IBM System i, AS/400) に接続し、印刷する方法について説明します。

第2章 『論理プリンター』

論理プリンター機能を使用した、プリンターの使い分け方法について説明します。

第3章 『ユーザーフォントの登録』

IBM iのユーザーフォントを登録する方法について説明します。

関連マニュアル

装置本体の設定、およびネットワークに関する設定を行う場合には、次のマニュアルを必要に応じて参照してください。

- PAGESBOX ユーザーズガイド



使用環境によっては、以下で説明している導入手順と異なる場合があります。

目次

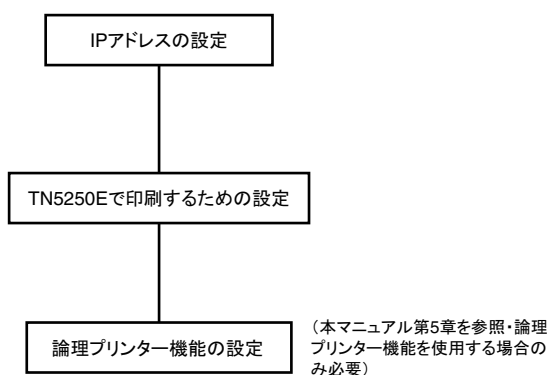
はじめに.....	ii
関連マニュアル.....	ii
第1章 IBM i (IBM System i, AS/400) との接続.....	1-1
接続の前に.....	1-1
接続の流れ.....	1-1
TN5250E 設定手順概要.....	1-2
TN5250E 自動構成.....	1-3
IBM i 環境確認 (自動構成).....	1-3
自動構成におけるIBM i の設定.....	1-4
TN5250E 手動構成.....	1-5
IBM i 環境確認 (手動構成).....	1-5
手動構成におけるIBM i の設定.....	1-6
TN5250E の設定.....	1-9
Webブラウザで設定する.....	1-9
TN5250E パラメーター説明.....	1-12
TN5250Eメッセージ一覧.....	1-15
SCSコマンドのサポートについて.....	1-18
第2章 論理プリンター.....	2-1
論理プリンター概要.....	2-1
印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法.....	2-1
第3章 ユーザーフォントの登録.....	3-1
ユーザーフォント登録手順.....	3-1
ホスト (IBM i) からのユーザーフォント登録.....	3-4
ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する.....	3-4

第1章 IBM i(IBM System i, AS/400)との接続

接続の前に

IBM i (IBM System i, AS/400) から印刷する方法として、TN5250E (TCP/IP) をサポートしています。

接続の流れ



重要

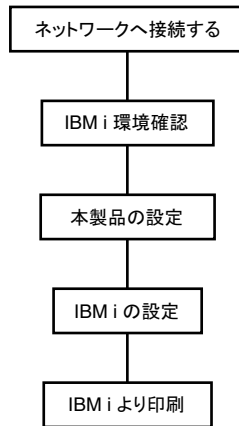
本製品でのTN5250E IBM i 接続は、i5/OS (OS/400) Ver 5.1以降で最終のPTFを適用の上で使用することをお勧めします。

TN5250E 設定手順概要

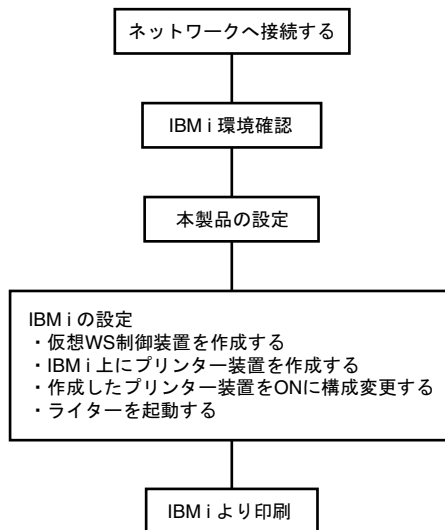
TN5250E環境における基本的なインストールは2つの方法があります。

- IBM i の自動設定機能に基づくセットアップ
- IBM i の設定を手動で行うセットアップ

IBM i の自動設定機能に基づくセットアップ概要（自動構成）



IBM i の設定を手動で行うセットアップ概要（手動設定）



TN5250E 自動構成

IBM i 環境確認 (自動構成)

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、IBM i の自動構成機能を使用してIBM i を構成する場合、IBM i 環境で確認およびメモすべき一覧です。

項目	コマンド	確認・メモ内容
仮想装置数	WRKCTLD *VWS	
QAUTOVRT	DSPSYSVAL QAUTOVRT	構成された仮想装置の数より大きいこと。
IBM i のIPアドレス	WRKTCPSTS *IFC	

以下に具体的な手順を示します。

1. IBM i のコマンドライン "WRKCTLD *VWS"を実行し、自動構成された仮想装置の数を把握します。
数を確認後、F3 キーを押して終了します。
2. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行します。
QAUTOVRTパラメーターの数が1.で確認した仮想装置の数より大きいことを確認します。F3 キーを押して終了します。
QAUTOVRTの値が小さい場合、値を大きくするか、不要な仮想装置を削除してください。
3. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行して、IBM i のIPアドレスを確認します。
IBM i に有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定します。IBM i にIPアドレス設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係しません。

自動構成におけるIBM i の設定

基本的には、IBM i 側の設定は不要です。

本製品のパラメーターを設定し、IBM i とのセッションが確立されると、必要な記述が自動構成されます (5553の自動作成)。

1. IBM i 構成状況を確認します。
WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL) コマンドにて、パラメーターに設定したデバイス名を確認すると、以下の表示になります。

```
                                構成状況処理                                S103ZT8M
                                                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                                開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
  1= オンへの構成変更      2= オフへの構成変更  5= ジョブ処理      8= 記述の処理
  9= モード状況の表示    13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                -----ジョブ-----
      QQAHOST            オフに構成変更
      QVIRCD0001        活動状態
      V85TN5250A        活動状態/書出 PGM   V85TN5250A  QSPLJOB   143287
                                                                続く...

パラメーターまたはコマンド
===>
F3= 終了  F4= プロンプト  F12= 取り消し  F23= オプション続き  F24= キーの続き
```

2. IBM i からテスト印刷を実行します。
プリントジョブを送ります。
最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに回答してください。

TN5250E 手動構成

IBM i 環境確認 (手動構成)

以下は、TN5250Eプロトコルを使用して印刷するために、IBM iを手動で構成する場合、IBM i環境で確認・メモすべき一覧です。

項目	コマンド	確認・メモ内容
QAUTOVRT	DSPSYSVAL QAUTOVRT	0であること
IBM iのIPアドレス	WRKTCPSTS *IFC	

確認の具体的な手順を以下に示します。

1. コマンド"DSPSYSVAL QAUTOVRT"を実行し、QAUTOVRTパラメーターの数が0であることを確認します。
QAUTOVRTの値が0ではない場合、プリンター装置が自動構成されますので、一時的に0にしてください。
2. コマンド"WRKTCPSTS *IFC"を実行し、System iのIPアドレスを確認します。
IBM iに有効なIPアドレスが設定されていない場合、IPアドレスを設定してください。
IBM iにIPアドレスが設定不能の場合、TN5250Eでの印刷はできません。



TN5250E接続において、システム値 (QAUTOCFG) : 自動構成装置は一切関係ありません。

手動構成におけるIBM i の設定

設定を開始する前に、ネットワーク詳細印刷を出力しておくことをお勧めします。ネットワーク詳細印刷の出力方法は、ネットワーク設定ガイド 第1章「ネットワーク設定の内容確認」を参照してください。

1. 仮想WS制御装置の作成

コマンド"CRTCTLVWS"を実行して、仮想WS制御装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように選択してください。

制御装置記述：使用する制御装置の名称を決めて入力してください。

例：

仮想ワークステーション・コントローラの記述の作成例です。

制御装置記述の作成（仮想WS） (CRTCTLVWS)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

制御装置記述	>	QVIRCD0001名前
IPL 時のオンライン	>	*YES *YES, *NO
テキスト記述	>	*BLANK

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き
パラメーターCTLDが必要である。

仮想WS制御装置が既に作成されている場合は、新規に作成する必要はありません。
既存の仮想WS制御装置も使用できます。

2. コマンド"CRTDEVPRT"を実行して、プリンター装置の記述を作成します。
画面に表示されるパネルの項目を以下のように設定してください。

装置記述 : 装置として使用するものの名称を決めて入力します。ただし、「プリンターの設定」
3.で設定したデバイス名と同一でなければいけません。

装置クラス : *VRTを選択します。

装置タイプ : 5553を設定してください。

装置形式 : B01を設定してください。

接続される制御装置 : 前節で作成した仮想コントローラ (QVIRCD000x) を設定してください。

DBCS機能の装置の機構 : 2424J2を設定します。

例

プリンター装置の記述の作成例です。

装置記述の作成 (印刷装置) (CRTDEVPRT)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

装置記述	> PRNTN5250M	名前
装置クラス	> *VRT	*ANYNW, *FAX, *FR, *IDL...
装置タイプ	> 5553	3287, 3812, 4019, 4201...
装置型式	> B01	0, 1, 2, 3, 4, 10, 13, 200...
IPL 時のオンライン	> *NO	*YES, *NO
接続される制御装置	> QVIRCD0001	名前
フォント:		
識別コード	> 3	3, 5, 11, 12, 13, 18, 19...
ポイント・サイズ	> *NONE	000, 1-999, 9, *NONE
用紙送り	> *TYPE	*TYPE, *COUNT, *CUT, *AUTOCUT
区切り用紙入れ	> *FILE	名前
セパレーター・ファイル	> *NONE	名前, *NONE
ライブラリー	>	名前, *LIBL, *CURLIB
印刷装置エラー・メッセージ	> *INQ	*INQ, *INFO

続く...

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F12= 取消し F13= この画面の使用法
F24= キーの続き

3. IBM i のディスプレイセッションで、WRKCFGSTSコマンドを使用して、手動で作成したプリンター装置をオンへ構成変更 (VARY ON) します。

4. コマンド"WRKCFGSTS CFGTYPE (*CTL)"で、IBM i 構成状況を確認します。
ここまでの作業の結果、1台のプリンターでは、下記のような構成状況になります。

```

                                構成状況処理
                                                                S103ZT8M
                                                                06/04/11 14:42:32
位置指定.....                               開始文字
オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1= オンへの構成変更      2= オフへの構成変更  5= ジョブ処理      8= 記述の処理
 9= モード状況の表示     13= APPN 状況の処理...
OPT  記述                状況                ----- ジョブ-----
      QQAHOST            オフに構成変更
      QVIRCD0001         活動状態
      :
      HOSTNETIP          活動状態/書出PGM  HOSTNETIP  QSPLJOB  143287
      :
                                                                続く...

パラメーターまたはコマンド
===>
F3= 終了   F4=プロンプト   F12= 取消し   F23= オプション続き   F24= キーの続き

```

5. ライターを起動します (STRPRTWTRコマンド)。
6. IBM i からテスト印刷を実行します。
ライター起動後の最初の印刷は、メッセージ応答待ちになりますので、メッセージに回答してください。

TN5250Eの設定

WebブラウザまたはTelnetから設定できます。

設定できる項目に関しては、「TN5250E 設定項目」を参照してください。

Webブラウザで設定する

1. Webブラウザを開き、本製品のIPアドレスを入力します。
本製品のWebページが開きます。
2. 左フレームのメニュー「ホスト接続機能」をクリックします。
以下のような画面が表示されます。



設定を行う場合、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

ユーザー名：root

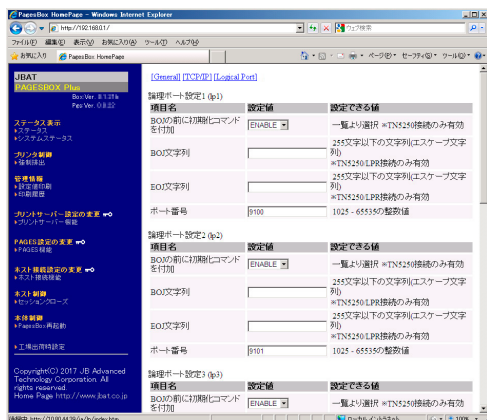
パスワード：(環境設定で設定した文字列・設定していない場合は入力する必要はありません)

で「OK」をクリックしてください。



3. TN5250Eを使用する場合、セッション1～4のいずれかにて「5250」を選択し、「設定更新」ボタンをクリックします。
2.の画面は、セッション1でTN5250Eを指定した例です。

6. 「5250」を選択したセッションの設定で、出力先印刷ポートとしてlp1～lp6を指定した場合、対応する論理ポート1～6において必要な設定を行います。
 プリントサーバー機能の [Logical Port] をクリックすると以下のように表示されます。



第5章「論理プリンター」を参照し、必要な設定を行ってください。
 変更後は、フレーム下の「設定更新」ボタンを押し、変更した設定項目を保存します。

7. すべての設定が完了したら、再起動確認画面で「Yes」をクリックします。



本製品を再起動する場合は、必ず印刷が完了している事を確認してください。
 印刷中に本製品を再起動させると、再起動後正常に動作しない場合があります。

TN5250E パラメータ説明

TN5250Eを使用して印刷する際、WebブラウザまたはTelnet上で設定可能なパラメータの一覧です。

ホスト接続共通設定

1. セッションタイムアウト

セッションタイムアウト機能は現在のセッションの印刷完了後、設定された時間の間、他のセッションからの印刷を保留にすることで、同じセッションの印刷を連続的に行えるようにする機能です。セッション間のタイムアウト時間を秒単位で設定します。

設定範囲 : 0秒～60秒
工場出荷値 : 0秒 (セッションタイムアウトしない)



0秒を設定した場合は、セッションタイムアウト機能が無効となります。

2. 内部トレース

ホストコマンドトレースを採取するか否かを選択します。

工場出荷値 : OFF (採取しない)

セッション毎の設定 (セッション1～4)

以下のパラメータは、ホスト接続共通設定にて「5250」を選択したセッション番号をクリックして設定します。

1. 接続先IPアドレス

プリンターをTN接続するホストのIPアドレスを設定します (工場出荷値 : 0.0.0.0)。



「接続先IPアドレス」が選択された状態で、IPアドレス値が0.0.0.0の場合は接続動作を行いません。

2. 接続ポート番号

TCP/IPのポート番号を指定します。

設定範囲 : 1～65535までの整数値

工場出荷値 : 23

3. 自動再接続

接続が切断された後、プリンター側から自動的に接続要求を発行します。

工場出荷値：ON（再接続する）

4. 装置名称

印刷装置のデバイス名(DEVNAME)を定義します。半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値：なし



装置名称の使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A～Z, @, #, \$

2文字目以降 : A～Z, 0～9, @, #, \$, _ , .

5. メッセージ待ち行列

プリンターの操作メッセージが送られる先の待ち行列の名前 (MSGQNAME) を定義します。

半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

メッセージ待ち行列はディスプレイ装置ごとに存在し、ディスプレイ装置自身と同じ名前が割り当てられます。

ここでディスプレイ・セッションの名前を指定した場合には、メッセージはデフォルト値待ち行列ではなく、そのディスプレイ・セッションに送られます。

工場出荷値：QSYSOPR



メッセージ待ち行列の使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A～Z, @, #, \$

2文字目以降 : A～Z, 0～9, @, #, \$, _ , .

6. メッセージライブラリ

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前 (MSGQLIB) を定義します。

半角の英数字で最大10文字まで指定できます。

工場出荷値：*LIBL



メッセージライブラリの使用可能文字には、以下の制限があります。

1文字目 : A～Z, @, #, \$

2文字目以降 : A～Z, 0～9, @, #, \$, _ , .

7. ホストコードページ

1バイト文字のコードテーブルを指定します。設定値は以下の通りです。

930: 英数カタカナ。英大文字と半角カナが印字されます。英小文字は印字されません。

931: 英数小文字。英大文字と英小文字が印字されます。半角カナは印字されません。

939: 英数小文字拡張。英大文字、英小文字と半角カナが印字されます。

工場出荷値：939

8. 自動改行
SCS SHFコマンドで指定される最大印刷桁数 (MPP) を有効とするか無効とするかを選択します。

工場出荷値: ON (MPPは有効)

9. トラクタモード
ON : ページ境界で改行が送られます。
OFF : ページ境界で改ページが送られます。

工場出荷値: OFF

10. SI/SOの拡大動作
SI/SOモード制御コードが、文字拡大指定範囲に含まれたときに拡大修飾の影響を受けるか受けないかを選択します。

工場出荷値: OFF (影響を受けない)



印字結果をIBMの装置と同一にするためには、以下のような関係があります。

IBM5227: 影響を受けない

IBM5327: 影響を受ける

11. ATRNモード
APWで書式合成 (MRGAPW) を行う際、印刷装置タイプ (DEVTYPE) へ *PAGES が指定されたときにIBM i から送出される印刷データストリームのフォーマットと合致するものを選択します。

選択可能値: Continuous
Subcommand

工場出荷値: Subcommand

12. 出力先印刷ポート
論理プリンターを経由してプリンターへ印刷データを送出する場合、lp1～lp6のどれかを選択します。
論理プリンターについては、第5章 論理プリンターを参照してください。

工場出荷値: lp1

13. ジョブ毎設定
「ON」にするとジョブ毎に印字幅、ページ長、文字ピッチ、行ピッチの初期設定値を送ります。

工場出荷値: ON

14. 機器登録外字の使用
TN5250E内のユーザーフォントを使用するか、プリンター本体内のユーザーフォントを使用するかを選択します。
本プリンターでは必ず「OFF」にします。

TN5250Eメッセージ一覧

各セッションの5250を選択すると、Webブラウザ表示の「HOST Connection status」部分にメッセージが表示されます。



接続状態遷移状況

メッセージ	内容
"Idle, not connected."	ホストとの接続をしていない状態です。
"Connecting..."	ホストへの接続を行っている状態です。
"Unexpectedly disconnected, wait reconnect."	ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOnのとき表示され、一時待機状態に入ります。
"Unexpectedly disconnected."	ホストとの接続が切断されたか、接続に失敗した状態です。自動再接続がOffのとき表示されます。
"Firmware broken."	回復不能な内部エラーが発生しました。

ジョブ処理状況

メッセージ	内容
"Session idle."	ホストと接続状態で、現在印字を行っていません。
"Wait printer available."	ホストからのジョブ開始を受けてプリンターポートの獲得を待っている状態です。ホストには場合によってNot Ready (C900030251) が通知されます。
"Printing."	印刷実行中です。
"Clear command received."	CLEARコマンドを受信したときに表示されます。
"Not Ready."	印刷中にプリンターがDeselect状態になりました。 ホストにはNotReady (C900030251) が通知されます。
"Graphic check."	印字不能文字を受信しました。 ホストにはGraphicCheck (C900030226) が通知されます。
"Machine check."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。 ホストにはMachineCheck (C900030211) が通知されます。
"Machine check 1."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。 ホストにはMachineCheck1 (C900030286) が通知されます。
"Machine check 2."	エミュレーターの内部で回復不能エラーが起きました。 ホストにはMachineCheck2 (C900030287) が通知されます。

接続開始状態（ホストからの通知）

メッセージ	内容
"Virtual device has less function."	機能制限つきで接続を開始します。
"Session successfully started."	通常の接続を開始します。
"Device description not found."	装置記述が見つかりません。
"Controller description not found."	制御装置記述が見つかりません。
"Damaged device description."	装置記述が破損しています。
"Device not varied on."	装置を有効にできません。
"Device not available."	装置は使用可能な状態にありません。
"Device not valid for session."	装置はこの接続には正しくありません。
"Session initiation failed."	セッションの開始に失敗しました。
"Session failure."	一般的なセッション動作が失敗しました。
"Controller not valid for session."	制御装置がこの接続には正しくありません。
"No matching device found."	この接続に合致する装置が見つかりません。
"Not authorized to object."	アクセス権限がありません。
"Job canceled."	ジョブが中断されました。
"Object partially damaged."	装置が部分的に破損しています。
"Communications error."	一般的な通信エラーが発生しました。
"Negative response received."	否定応答を受信しました。
"Start-up record built incorrectly."	開始レコードが正しく作られていません。
"Creation of device failed."	装置の生成に失敗しました。
"Change of device failed."	装置の構成変更に失敗しました。
"Vary on or vary off failed."	装置の有効化・無効化に失敗しました。
"Message queue does not exist."	指定されたメッセージキューは存在しません。
"Session rejected."	セッションは拒絶されました。
"Security failure on session attempt."	セッション確立時にセキュリティ上の問題が発生しました。
"Auto-config failed or not allowed."	自動構成に失敗したか、あるいは許可されていません。

SCSコマンドのサポートについて

SCSコマンドの以下の処理については、本製品では対応していません。

- 不正文字コード受信について
ホスト上での設定で不正文字コードを受信した際に印刷を停止するモードがあります。本来この設定をすることにより、不正文字コードを受信した際にプリンターを印刷不可状態にして注意喚起を行います。本製品はこの設定を無視して次のデータの印刷を継続します。
- Bell コマンドについて
SCS の Bell コマンドは、受信時にプリンターを印刷不可状態にして、音を鳴らして注意喚起を行うコマンドです。本製品では、この命令を無視し次のデータの印刷を継続します。

第2章 論理プリンター

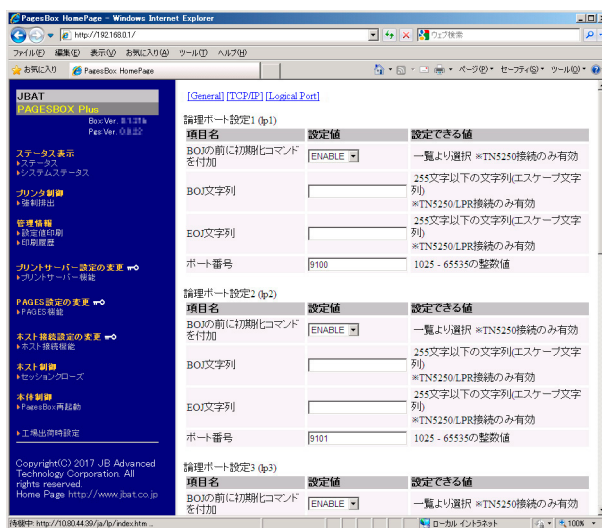
論理プリンター概要

論理プリンターとは、ネットワークと物理的なプリンターとの間に設定された仮想的なプリンターです。この機能を使うことで、たとえ物理的にはプリンターが1台しかなくても、6つまでの論理プリンターに各々別の属性を与えて、場合に応じて使い分けることができます。

印刷ジョブ前後の文字列送信機能の使用方法

ここでは、各印刷ジョブ前後にプリンター制御コマンド等の文字列を送信する方法について解説します。この指定は、各論理プリンターで個別に行うことができます。すべての文字列は、16進数値で記述します。

1台のプリンターで複数種類の用紙に印刷する場合、各論理プリンターに対応するコマンドを設定しておけば、出力時に論理プリンターを切り換えるだけでそれらの印刷が可能になります。論理プリンターはlp1～lp6があり、下図のようにのBOJ文字列、EOF文字列のパラメーターがあります。また、BOJの前に初期化コマンドを付加するか指定も可能です。初期設定では、初期化コマンドをBOJの前に必ず付加します。



以降で、トレイ選択設定例を説明します。

(1) トレイ 1 選択

B0J文字列：¥x1B¥x7E¥x46¥x00¥x05¥x00¥x00¥x00¥x00¥x00

(2) 手差しトレイ選択

B0J文字列：¥x1B¥x7E¥x46¥x00¥x05¥x00¥x00¥x01¥x00¥x00



16進コードに文字コードが割り当てられている場合、文字列設定後にウィンドウを再表示させると、該当する文字に置き換えられて表示されます。

例：

¥x25 ⇒ " % "

¥x31 ⇒ " 1 "

¥x7E ⇒ " ~ "

第3章 ユーザーフォントの登録

本機能では、ユーザーフォントを4370文字まで登録できます。



- 登録できる文字のドットサイズは、縦24ドット×横24ドットのフォントで、縦24ドット×横27ドットのフォントは登録できません。
- プリンターに登録されたユーザーフォントは、削除されたりインターフェースの初期化が実行されない限り有効です。

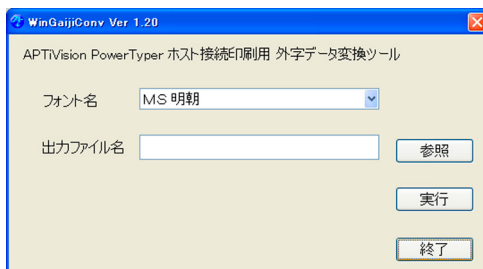
ユーザーフォント登録手順

1. ホストで使用するユーザーフォントが登録されているPC上で、ユーザーフォント変換ソフトウェア「WinGaijiConvA.exe」を起動します。



PCのユーザーフォントのドットサイズは縦64ドット×横64ドットでデザインされていますが、本ツールにより縦24ドット×横24ドットに変換されてホスト接続機能に登録されます。

外字データ変換ツールウィンドウが開きます。



2. フォント名を選択します。



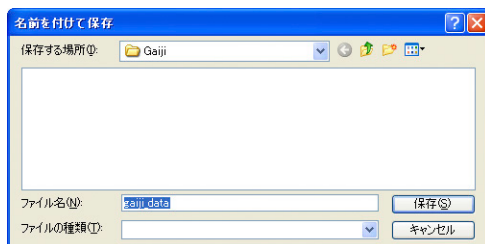
3. 出力するファイル名を指定します。
直接「出力ファイル名」に入力するか、「参照」をクリックします。



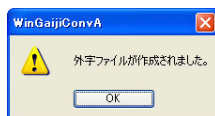
ファイル名は任意で指定できます。ただし、ftpのputコマンドを実行する際は、ファイル名を以下のように変更する必要があります。
「gaiji_data (拡張子なし)」



「参照」をクリックすると、選択画面が表示されます。



4. 外字データ変換ツールウィンドウに戻って、「実行」をクリックします。
作成終了のダイアログボックスが表示されたら「OK」をクリックします。



再度、外字データ変換ツールウィンドウに戻って「終了」をクリックし、外字データ変換ツールを終了します。

5. 「出力ファイル名」で指定したフォルダに、作成されたファイルがあることを確認します。

6. コマンドプロンプトを起動します。
ファイルを作成したフォルダに移動し、プリンターのFTPを起動し、
User : ftp
Password : (なし)
でログインします。

7. 作成したユーザーフォントファイルをputコマンドで登録します。



putコマンドを実行する際は、ユーザーフォントファイル名を以下のように変更する必要があります。

「gaiji_data (拡張子なし)」

- 例) 指定フォルダ : C:\work\Gaiji
プリンターのIPアドレス : 10.80.40.236
の場合

```
コマンド プロンプト
C:\Documents and Settings\User>cd %work%\Gaiji
C:\work\Gaiji>ftp 10.80.40.236
10.80.40.236 に接続しました。
220 pages-box FTP server (GNU inetutils 1.4.1) ready.
ユーザー (10.80.40.236: (none)): ftp
331 Guest login ok, type your name as password.
パスワード:
230 Guest login ok, access restrictions apply.
ftp> cd setup
250 CWD command successful.
ftp> bin
200 Type set to I.
ftp> put gaiji_data
200 PORT command successful.
150 Opening BINARY mode data connection for 'gaiji_data'. data connection.
226 Transfer complete.
ftp: 314648 バイトが送信されました 0.51秒 615.75KB/秒。
ftp> quit
221 Goodbye.
```

8. ftpのプロンプトに戻ったら、quitコマンドでftpを終了します。



- ここで登録されたユーザーフォントは、プリンターのホスト接続機能でのみ使用できません。その他の印刷においては使用できません。

ホスト (IBM i) からのユーザーフォント登録

ユーザーフォントは、IBM i のユーザーフォント登録機能 (LODPPW) を使ってプリンターに登録します。LODPPW の使用方法につきましては、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン株式会社のホームページにあるプリンターホームページのダウンロード項目を参照してください。



このプリンターに登録できるユーザーフォントは24ドット×24ドットのフォントのみです。また、登録できる文字数は4370または1880文字までです。

ユーザーフォントを複数のプリンターに登録する

IBM i からプリンターにダウンロードされたユーザーフォントは、ファイルとして保管できます。このファイルを使用し、複数の同シリーズのプリンターへも登録できます。

1. 登録されたユーザーフォントをftpのgetコマンドで取得します。

例) 指定フォルダ : C:\work\Gaiji
プリンターのIPアドレス : 10.80.40.236
の場合

```
コマンド プロンプト
C:\Documents and Settings\User>cd %work%\Gaiji
C:\work\Gaiji>ftp 10.80.40.236
10.80.40.236 に接続しました。
220 pages-box FTP server (GNU inetutils 1.4.1) ready.
ユーザー (10.80.40.236: (none)): ftp
331 Guest login ok, type your name as password.
パスワード:
230 Guest login ok, access restrictions apply.
ftp> cd settings
250 CWD command successful.
ftp> bin
200 Type set to I.
ftp> get gaiji_data
200 PORT command successful.
150 Opening BINARY mode data connection for 'gaiji_data' (314648 bytes).
226 Data connection closed.
ftp: 314648 バイトが受信されました 0.61秒 514.97KB/秒。
ftp> quit
221 Goodbye.
C:\work\Gaiji
```



getコマンドを実行する際は、ユーザーフォントファイル名を以下のように変更する必要があります。

「gaiji_data (拡張子なし)」

ftpのプロンプトに戻ったら、quitでコマンドでftpを終了します。

- 指定したフォルダ内にユーザーフォントファイルが格納されていることを確認します。
- 前項「ユーザーフォント登録手順」7.の手順で、このユーザーフォントファイルを複数のプリンターに登録します。

JBアドバンスド・テクノロジー株式会社

<https://www.jbat.co.jp>